優秀賞

水が教えてくれた現状と世界

日立市立十王中学校
三年　永井　歩

私は、小学校の頃浄水場について学習した。これをきっかけに、小学四年生の時、自由研究で「水のゆくえ」について調べた。その時、水は限りある資源であり、大切に使う必要があると強く感じた。しかし、私達の生活に水は欠かせない。今回、その調査結果と世界の現状を踏まえ、自分たちが水を使う時にできることを自分なりに考えてみた。

まず、「水のゆくえ」について、ダムや下水処理場で調査した。十王ダムでは大きなゲートで水の放出や貯水を行うこと、流域表示板で細かく管理しているなど、ダムの役割を知った。大雨時の洪水調節、水道調節、工業や農業用水など様々な用途や天候に合わせて細かく管理しているそうだ。もしダムがなかったら、水は貯水されることなく流れて洪水の原因になったり、必要な時に水が不足したりするなどの問題が起きてしまうだろう。十王町が洪水や水不足にならず豊かに暮らせているのは、十王ダムのおかげであることを知り、改めてダムの大切さに気づいた。

続いて「伊師浄化センター」を訪れた。家庭へと送られた水は下水道を通って下水処理場へと運ばれる。ここでは機械、微生物、薬品を使い安全な水に戻す。まず機械で土砂を沈ませる。次に微生物が有機物を分解し、最後に薬品で安全な水に仕上げる。そして、きれいになった水は付近の川に放流される。調べてみて、水がきれいになるまで相当時間がかかっていることに気づいた。また社員の方に「下水道は詰まることはないのですか。」とインタビューしたところ、「油や野菜くずは詰まらせる原因になるので直接流さないでほしい」と言っていた。この話を受けて、例えば新聞紙で油を吸い取ったり、野菜くずを分けて捨てたりするなどの取り組みを、皆で継続して行うことが重要であると感じた。ぜひ普段

の生活で実践していきたい。

次に世界の現状について調べた。日本は安全できれいな水が豊富にある。しかし、世界では人口増加による水不足や紛争も起きている。日本ユニセフ協会のページには次のような悲惨な現実が書かれていた。

「三百三十万人を超える子どもたちが、水の重さに耐えながら、毎日遠い道のりを歩き続けています。疲れ果てた子どもたちには、学校に通う時間も体力も残されていません。」

この事実を知り、水不足の問題は早急に解決すべきであると感じた。せっかく手に入れた水も安全な水とは言えない。日本では水不足で困ることはなく、子供は学校に通うことができる。しかし、別の国では子供が水汲みのために学習する機会を奪われている。このような環境を少しでもよくしようと、日本人スタッフも現地で活動しているそうだ。しかし、その活動をただ見ているだけで問題は解決されるのだろうか。私は人に頼るのではなく「自分にできることは何か」を考えることが大切であると考える。例えば、募金や寄付などの支援活動や、周りの人々にこの現状を伝えることも問題解決につながる大きな一歩になるだろう。今後、世界中どの地域でも水が豊富に使えて子供も自由に学習することができる世界を目指して、自分にできることを考えて行っていきたい。

最後に、水はとても身近であり、意識しなければきれいで安全な水は当たり前であると思ってしまう。ダムや下水処理場があることで当たり前のように安全な水が飲めること、世界には水不足で悩む人がいることを、今回調べなければ、気づくことも知ることもできなかっただろう。目の前のものが「当たり前」ではなく、たとえ見えなくても、多くの人の手によって成り立っていることを忘れずに生活したい。そして自分のかかげる理想の世界を胸に、日本から支援というエールを送りたいと思う。